書店カ 本屋プラグ 和歌山県和歌山市

買うだけじゃない、人が交流できる本屋

食に関するイベントも行う会費制のキッチンスペースであるシェアキッチン。このシェアキッチンから書店へと、異色の業態転換を図ったのが「本屋プラグ」だ。目指すのは、コミュニティーの生成拠点であり、コンテンツの発信拠点。

1,2 今春オープンしたばかりの「本屋プラグ」。居心地のいい明るい店内。

この数年、全国的にいわゆる〝街の本屋さん〟が減る一方で、店主の個性を活かしたユニークな書店が増えている。今年3月に和歌山市内にオープンしたばかりの「本屋プラグ」もその一つ。単なるブックカフェという枠には収まらない新しいカタチの書店だ。

「本が買えるだけでなく、人が交流できる本屋を目指します」と話すのは店長の小泉博史さん。

天然木を活かした明るい雰囲気の店内には、約2000冊の本が並んでいる。最新刊の隣りに古本があったり、あえて本のタイトルを隠した〝福袋〟があったり。どんな本と出会えるのかワクワクする。

「本屋になる前は、キッチン付きのイベントスペースだったんです」

小泉さんが運営していた「シェアキッチンPLUG」は、食と料理を介したコミュニティースペースとして、約2年半の間に、IT系のイベントや講演会、地元の人たちが集まるパーティーなど500件以上も開催した。

「シェアキッチンのときは、週末だけカフェの営業をしていたのですが、そのうち、『このカフェで本を販売したい』という人と出会いました。今は一緒に本屋プラグを運営している三木早也佳さんです」

当初はカフェの一角で300冊ほどの本を委託販売するだけだったが、読書会などを開くうちに、小泉さんは本が持つコミュニケーションツールとしての側面に注目するようになったという。

「たとえば、今まで友達だと思っていた人同士でも、自分の好きな本をおすすめしあう読書会を開催すると、そんなことに興味があったのか、そういう考え方をする人だったのか……などといった、相手の知らなかった一面が見られることがあります」

そして、「いつか本屋さんをやってみたい」と考えていた三木さんを小泉さんが後押しするうちに、〝人が交流できる本屋〟という新しい店のコンセプトが見えてきた。

「シェアキッチンで培ってきた経験や人脈を生かして本屋になれば、コミュニティーの生成拠点だけでなく、講演会や読書会、古本市をはじめとしたさまざまなイベントなど、コンテンツの発信拠点にもなれるはず」

こう思ってから2人の行動は早く、2カ月後にはシェアキッチンから書店へ業態変更の準備を始め、同時にクラウドファンディングを開始。店舗のリフォームにも着手した。書店としてリニューアルオープンしたのが3月。3月31日に終了したクラウドファンディングは目標金額の200%を超える大成功を収めた。

すでに和歌山市内だけでなく、県外からも注目を集めている「本屋プラグ」だが、今後は地域に根付いたリトルプレスの発刊も行う予定だとか。

「それを読んでくれた人にとって、街を知るきっかけになってくれればうれしいですね」

人と人をつなぐだけでなく、地域をデザインする新しい書店が和歌山市に生まれた。

（芹澤健介）

3 古本市のイベント。4 共同経営者の小泉博史さんと三木早也佳さん。

取材協力・写真提供＝本屋プラグ　http://plug-kitchen.com/